



海外の整形外科医・学会との交流報告

2024 Ruth Jackson Orthopaedic Society (RJOS)

Annual Meeting への参加 (令和6年2月)

前出の Dr. Tessa Balach から紹介いただいた RJOS Annual Meeting (San Francisco) に 2024 年 2 月、視察を兼ねて男女共同参画委員会から山内かつ代担当理事、大泉尚美委員長、新関祐美アドバイザー、長嶺里美委員、上里涼子委員の 5 名で参加いたしました。

AAOS の会期中に開催された年次総会は、“They for She”というテーマを掲げ、過去最多という 375 名の参加者でした。

Annual Meeting に先立って第 1 回 Research Symposium が開催され、女子医学生からの視点で男女格差について発表されていたことが印象的でした。Annual Meeting ではシッティングバレーボールでパラリンピックの金メダルに 2 度輝き、東京 2020 大会ではチームキャプテンとして MVP を受賞した Ms. Katie Holloway Bridge の講演があり、パラリンピック選手としてのこれまでの苦労や経験を共有しました。講演に続いて、Ms. Bridge の司会で、様々な立場の男女 6 名が登壇して、DEI (Diversity, Equity, Inclusion) についての公開討論があり、女性というマイノリティのみでなく、人種というマイノリティに関する議論や、課題にどう対応していくのか、支援する方法などが活発に議論されていました(写真 1)。会場は円卓で、休憩中にbuffetをいただきながら、和やかな雰囲気でした(写真 2、3)。また、ピーズアクセサリーを作るコーナーや、プロのカメラマンによる記念撮影ブース、カクテルスタンドなど、日本の学会ではみかけない演出がたくさんありました(写真 4)。学会のサブスクリーンには、Sister Society として JOA ロゴをロールスライドでご紹介いただきました(写真 5)。

Annual Meeting の翌日には、RJOS の多忙な理事たちが、朝食後のわずかな時間を私たちのために作っていただき、質問にお答えいただきました。

アメリカの女性整形外科医に多いサブスペシャリティは、小児整形外科だそうです。脊椎外科医はわずか 2%で、関節外科医はそれよりも更に少ないとのことでした。アメリカでは一般開業医の女性整形外科医も多いため、日本との直接比較は難しいですが、関節外科医が少ないというデータは少し意外でした。

トラベリングフェローについて、アメリカの事情をお話してくださいました。アメリカでも、日本と同じように、長期間のトラベリングフェローに女性の応募が少ないとのことでした。RJOS は、期間や行き先を自由に設定できる自由度の高いトラベリングフェローを設定しているとのことですが、私たちが質問した年は、1 人も応募がなかったそうです。その理由として、RJOS メンバーの多くが若い母親だからだと説明されておりました。また、フェローで仕事から離れる期間、給与の補償が無く、収入がなくなることにも問題の一つに挙げていました。日本でもトラベリングフェローの参加に女性が少ないことが指摘されています。期間が選べることや、年齢制限に余裕があることで選択の幅が広がると思います。

RJOS が女性やマイノリティのサポートをしていることについて語っていただきました。整形外科希望

の医学生から依頼があれば、RJOS が就職ための推薦状を書いたり、上司に直接お願いすることもあるそうです。就活の方法は日本と異なりますが、アメリカでは 2018 年にマイノリティの整形外科志願者が 6% だったのに対し、2023 年は 23% に増加しているとのこと。女性整形外科医も今後増加していく予想です。日本も同じ傾向ですので、今後も問題や苦労を共有することでお互いに解決のヒントが得られるかもしれません。

RJOS は女性整形外科医のキャリア形成・リーダー育成のサポートという明確な目標のもと、多様な委員会をうまく機能させ、女性整形外科医の活動推進、メンバー拡大、人脈形成、スカラーシップ・グラント、自由度の高いトラベリングフェローシップの提供、発表・講演の機会を創出していました (写真 6)。



(写真 1) 左はスポンサーのスライド。中央は President の Dr. Christen Russo。右はパネリストの紹介。



(写真 2) 会場は円卓に着席するスタイルで、和やかな雰囲気でした。



(写真 3) Dr. Tessa Balach とも再会し、休憩でビュッフェをいただきました。



(写真 4) カクテルスタンド、ビーズアクセサリーコーナー、プロカメラマンの写真撮影、ビュッフェなど、明るく楽しい雰囲気でした。



(写真 5) Sister Society として JOA ロゴをロールスライドでご紹介いただきました。隣は、International Orthopaedic Diversity Alliance (IODA) のロゴです。



(写真 6) RJOS の理事と一緒に。たくさんの質問に答えていただきました。

(文 上里涼子)